

## 恵那地球塾第1期生 長期留学 中間報告

「留学半年間を終えて」(2019年8月~2020年4月)

○カナダ 2年普通科 宮地 里歩(恵那西中出身)

### <英語研修>

カナダに入国して最初の1週間は、約30人の日本人留学生と一緒にバンクーバーのコキットラムという都市に、英語研修のために滞在しました。コキットラムには大きなモールや図書館、ハイラインがあり、とても過ごしやすかったです。私が通学に使っていたハイラインは日本とシステムが違って、どれだけの距離を乗っても料金は一律でした。ホームステイ先の近くには公園があり、都会と自然が共存していて、充実した時間を楽しむことができました。この1週間の間は、日本人が常に身近にいたため、ホームシックになることはありませんでした。ホストファミリーは、留学生を受け入れるのが初めてだったらしいのですが、私を楽しませようと、いっしょに買い物に行ったり、散歩に行ったり、近くのタピオカのお店に連れて行ってくれたりしました。6歳のホストシスターはとてもかわいらしくて、妹のような存在でした。この1週間はあっという間に過ぎてしまいましたが、本当に思い出深いものとなりました。ホストファミリーと別れるときには、悲しくて号泣してしまい、それを見たホストマザーとホストシスターも泣いてしまって、本当にこの家族と出会えてよかったと感じました。バンクーバーを離れた後もこまめに連絡を取っているため、この関係がもっと続けられたらよいと思っています。

### <ホストファミリー>

私が今滞在している家は、これまで約20人の留学生を受け入れた経験があり、その上、ホストマザーは留学コーディネーターとして働いているので、とても頼りがいがあります。シルバンレイクは寒いうえに降雪量も多いため、自力で買い物に行くことは簡単ではありません。しかし、ホストファミリーは親切で、私が携帯代金の支払いや日用品の買い出しに行きたいときは、頼めばお店やモールに連れて行ってくれます。そのため、特に不自由なく生活できています。ホストファーザーはとにかく優しく、気さくで面白い人です。学校から帰宅すると、「今日は何があったの?」とか、「友達とたくさん話せた?」とか、話題を振ってくれるので、一緒にいて楽しいです。彼の趣味はスキーなので、冬休み中はよくスキーに連れて行ってくれました。私はスキーがあまり上手ではないのですが、日本とは桁違いの長さで大きさのスキーヒルだったので、楽しむことができました。

ホストマザーは意思が強く、頼れる人です。私を退屈させないために、買い物に行くときや、大学



に通うホストシスターに会いに行くときには、必ず私を誘ってくれます。また、料理が趣味なので美味しいお菓子をいつも作ってくれます。ホストブラザーは私より2歳年下ですが、ゲームが大好きで、特に任天堂が大好きなので、ゲームやアニメの話ができるので楽しいです。私の誕生日は9月4日なのですが、シルバンレイクに着いて2日後が私の誕生日でした。日本とカナダの間には15時間程の時差があるので、シルバンレイクに着いた1日後に、日本の家族や友達から、「お誕生日おめでとう」とメッセージが届きました。そのため、日本が恋しくなってホストファミリーの前で泣いてしまったことがあるのですが、その時にクッキーをたくさんくれて励ましてくれて、私はホストファミリーに恵まれたことを実感しました。

### <学校>

私の通っている高校はHJ Cody School というアルバータ州シルバンレイクにある公立高校で、生徒数は600人ほどです。この高校に通って一番驚いたことは、授業前に国歌を歌うことです。私は社会、化学、体育、家庭科の4つの授業を取っています。日本に居た頃に比べて、宿題の量は格段に減りました。しかし、自分の意見を発言したり、プレゼンテーションをしたりする機会が増えました。カナダの政治や環境などについての知識が無いと、なかなか理解が難しいです。テストの内容も、パソコンを使ったライティング形式が多いです。自分の成績をパソコンやスマートフォンを使っていつでも見ることができ、出席状況もすべてデータ管理されていました。校則はとても緩く、髪を染めるのもピアスをつけるのもどんな服を着るのも自由でした。日本では、私の周りにはいる人たちは、ほぼ黒髪で瞳の色も黒かったため、移民の国だからこその多様性を感じました。HJ Codyには、たくさんの人種の生徒が通っているため、英語のほかにもスペイン語やフランス語、タガログ語など、様々な言語を話せる生徒がおり、それぞれの国の言葉を教え合うのが興味深かったです。



<友達>登校初日は、授業は理解できないことや、ロッカーのカギの開け方が日本と違って特殊で、一人で開けられないことなど、とにかく不安でいっぱいな一日でした。他の日本人留学生たちとは、英語力向上のために、昼食は別で食べようと約束していたので、誰と昼食を食べればいいのか全くわかりませんでした。でもその時に、私がロッカーのカギを開けてもらった女の子の1人が、「一緒に食べない?」と誘ってくれて、凄く嬉しかったのを覚えています。友達も様々な人種の人があり、私にとって新鮮です。日本と違ってカナダにはホームルームがないので、友達を作るのは難しかったです。しかし、体育の授業を通して、友達を徐々に増やして行けたので、スポーツの力を強く感じました。ほとんどの友達は自動車運転免許を所持してお

り、友達に運転してもらってシルバンレイクを案内してもらったり、一緒にクリスマスパレードに行ったり、たくさん外出することができているので、この調子でもっと仲を深めていきたいです。

### <自分の変化>

私は留学前に自分の目標を、先生方や全校生徒の前で発表する機会が沢山ありました。その時私は毎回、積極的に現地の人に話しかけるという目標を掲げてきました。元々積極的な性格ではないので、自分を変えたいという願望もありました。しかし登校初日、緊張と不安で、自分から友達に声をかけることがあまり出来ませんでした。カナダ人の友達を遊びに誘うのにも時間がかかりました。それに、思っていたよりも1人で過ごす時間が多くありました。口で目標を言うのはとても簡単だけど、実際に会話をしている人たちの間に入ったり、分からない所を先生に質問したり、言葉が通じない状態で、部活動などに飛び込んでいくのは難しいことでした。留学生だからといって特別扱いしてもらえない訳ではありません。自分で行動を起こさないと何も伝わらないし、ただダラダラと時間が過ぎて行ってしまっただけだと分かりました。英語を学ぶことは勿論ですが、カナダに来なければ、周りに流されたままで成長出来なかったと思います。カナダに来てから、自分の意思をはっきり示すことが出来るようになったと思います。また、家族や友達の大切さ、今まで自分がどれだけ、支えられてきたかを思い知りました。日本に居た時は、小さい悩みも友達に相談したり家族と過ごすうちに、忘れたり解決したりしていました。でもカナダに来て、離れ離れになって、それがどんなに大切で、自分は日本のことが大好きだなと改めて思いました。

### <帰国に向けて>

この5か月は本当に一瞬で、かけがえのないものになりました。しかし、まだまだ内気になってしまう瞬間があり、もっと友達や先生に話しかけるべきだと思いました。折角掴んだこの留学の1分1秒を大切にしていきたいので、冬が終わって暖かくなって、卒業するまでにもっと沢山の思い出を作りたいです。



## 「留学半年間を終えて」(2019年8月~2020年4月)

### ○カナダ 2年理数科 小栗まほ和 (恵那北中出身)

#### <感じたこと・ホストファミリー>

私が留学半年を終えて、『世界って広いんだな』と実感する毎日です。日本とは本当に何もかもが違います。想像以上に違いました。

まず人間性が違います。カナダの人たちはみんなおおらかでとても自立しています。カナダにいると時間の流れがとてもゆっくりに感じます。そしてみんな本当にしっかりと自分を持っていると感じます。好きなものは好き、嫌いなものは嫌い、本当にはっきり表現し、自分に自信を持っています。また、自分の得意なものはどんどん表に出しています。他人がしていても自分がしたくなかったら同じことはしません。逆に、他人がしていなくても自分がしたいと思ったら行動に移します。だから本当にいろいろな性格の人がいると感じることができ、それがとても新鮮です。私は相手の意見を尊重するタイプで、他人に流されてしまうこともよくありました。そのため、ここに来た当初は、少し戸惑いました。自分というものを持っていないと置いて行かれ、やりたいことは自分で言わないとできません。日本人のように気をきかせて、わざわざ聞いてくれたり気持ちを察したりしようとはしてくれません。しかし、意見を言えばしっかり聞いてくれます。留学するまで、日本人と一緒にいたため気づきませんでした。私は周囲に甘えていたと感じました。私は、日本人の他人の気持ちを考えられる心がとても好きで、この点は大事にしたいと思います。しかし自己主張することもとても大事なのだと改めて学びました。私の目指す形は、自分をしっかり持っていながらも、他人を思いやることのできる人間性をもつことです。カナダでもっと自己主張や自己表現能力を鍛えます。私は今17歳ですが、ここにいると自分が中学生くらいに感じます。英語があまり話せなくて、周囲に助けられているせいもあるかもしれませんが、日本と比べて子供の精神年齢がとても高く感じます。私のホストシスターの一人は今年13歳で私の日本の妹と同じ歳なのですが、信じられないくらい大人です。とてもしっかりしています。メイクアップの仕方を教えてくれたり、いろいろ助けてくれたり、よく私の意見に耳を傾けてくれます。4歳年上のはずの私の方が年下に感じます。もうひとりの1歳下のホストシスターは、学年は私と同じグレード11に所属しています。授業で、分からないときや聞き取れなかったときなどによく助けてくれます。先生の話すスピードが速いときは「理解できた？」と気にかけてくれます。また、私が「分からない」と言えば簡単な言葉にして教えてくれます。ホストブラザーは1歳上、正確に言えばたった4か月年上なだけなのに車の運転もでき、はっきり言ってもう大人です。自立しています。また、1か月に1回、ホストファミリーにやってくる9歳と7歳と3歳の子がいるのですが、3歳の子ですら既に1人で寝ます。このような環境にいると、自然と私も自立したいという気持ちになります。「自分のことは自分でやらない」という気持ちです。ホストマザーから「まほ和、どんどん自立してきているね。来た時より顔が大人っぽくなったよ。」と言われました。



それでも、自立することは、すぐ誰にでもできることではないと実感しています。

またカナダの人たちはコミュニケーション能力がとても高く、よく話します。自分のことはもちろん、家族のことを話題にします。初めて出会った人ともすぐに打ち解けています。まるでみんな知り合いのようです。特に私のホストマザーは、とびぬけてコミュニケーション能力が高いと思います。いつもパワフルで、誰にでも全くためらいもなく話しかけます。そしてなかなか話が途切れません。"My house always opens for everyone!"と言って誰でも気軽に家に入れます。

私が一番すごいと思ったマザーのコミュニケーション能力は、クリスマストレインというイベントに行った時に感じました。クリスマストレインとは、クリスマスの時期にイルミネーションされた、カナダを横断する慈善活動に使われる電車のことです。「フードバンク」というカナダの恵まれないこともたちにお菓子や食べ物と寄付するという活動に使われているようです。その電車にはカナダ出身の歌手が同行しており、所々で停車して、歌をプレゼントしてくれます。今年は **Scott Helmen** というカナダのラジオ局で有名な歌手が参加し、歌のパフォーマンスがありました。私のホストシスターたちは、彼のファンなのでとても喜んで曲に聞き入っていました。私もラジオで彼の曲をよく聞いていたので、とても興奮しました。この後、ホストマザーはとんでもない行動をしました。特別なチケットがないと電車の中に入れないのですが、ホストマザーは、警備員の人と交渉し、なんと **Scott Helmen** に会う許可をもらい、私たちは電車の中に入って彼とツーショットの写真を撮ることができたのです。彼女のその交渉力と行動力には、とても驚き、また尊敬しました。

またホストマザーは私に対しても本当の家族のように接してくれ、"New experience"と言って様々なことをやらせてくれます。私はここに来て初めて体験した事がたくさんあります。ジャズダンスを始めたり、スカーフの編み方を教わったり、スノーボードにも挑戦してみました。また、ある小学校を訪問し、カタカナと折り紙を教えました。この他、様々なところに連れて行ってもらいました。ホストマザーには本当に感謝しており、「本当にすごい人だなあ」と思います。本当にホストファミリーに恵まれたと心から思います。私は幸せ者です。彼女をお手本にしてコミュニケーション能力を磨きたいです。

### <学校生活>

学校生活は日本と、驚くほど違います。私の通っている学校は **Birtle Collagiate** というグレード 5 から 12 までの 8 学年で 150 人ほどしかない小さな学校なのです。ここは、日本と同じところを探すことが難しいくらい違っています。まず朝、1 限目の初めに国歌が流れます。初めて聞いたときは校歌だと思っていました。授業中に飲み物を飲んだりお菓子を食べたりできること、席は自由で授業によってはスマホを使ったりすることさえできます。授業内容は圧倒的にカナダの学校のほうが自由で、オリジナルのためになります。ここにいるからこそできることを授業に取り入れている感じがします。例えば "Wildlife" という授業は、本当にカナダの田舎にいるからこそ体験できるものです。留学 1 週目が過ぎたころ、本物の、それも先生が狩った野生のクマが出てきて度肝を抜かれました。また別の日には、コヨーテや鹿の頭を丸ごとゆでて、肉を剥ぎとって骨にしました。さらに次の授業では、**Trail Camera** という野生動物を観察するためのカメラを設置するために、**GPS** を使って 2 時間半ほど学校の近くの森の中を探検しました。日本では考えられないようなことばかりしています。とても楽しく、充実しています。

私の出身地の恵那市も、ここと同じようにとても田舎で野生動物にたくさん出会ったことが

あります。しかし、その当時の私は、本当に何も知らなかったことを感じます。考え方や環境の違いだと思いますが、日本では学べる場所があっても、それを十分活用していないことに気づき、もったいないと感じています。カナダでは教えてくれる先生も環境もそろっている、いろいろな経験と知識を増やすことができることは大変素晴らしいと感じています。"Wildlife" のような授業が、様々なことに対して興味を持たせ、視野が広がるのだらうと思います。

その他の授業の雰囲気も全く違います。のびのびしています。生徒が先生に率直に自分の考えを伝え、ディスカッションやプレゼンテーションをする機会が多いです。それぞれが、自分の意見を明確に伝え交流し合います。全く違う意見を言った場合でも、周囲はしっかり聞いて、受け入れています。分からないところがあれば、納得するまで先生に質問しています。本当に、先生と生徒で授業をつくられている感じです。先生と生徒の距離がとても近いです。このような点が、まさに自分をしっかり持っていることを表していると思います。宿題はほとんどありませんが、知識や考え方をしっかり持っているのを感じます。日本の宿題の量を考えただけでも、ぞっとします。今後は、この学校でしか選択できないような授業に参加し、様々な知識や体験を増やしていきたいです。

### <友達>

私は幸いなことにホストシスターが同学年だったため、ランチタイムも 1 人になることはありませんでした。ランチタイムは、ほぼ毎日ホストシスターの **Madison** と双子の **Madisyn & Kaylee, Jenna** と **Keasha** の 6 人で食べています。特に双子の **Madisyn** と **Kaylee** はとても優しく賢いので、授業の内容が分からないときはいつも助けてくれます。どこかに行ったりするときにはいつも「まほかは？」と気にしてくれます。彼女たちは、学校の近くに住んでいるため、ランチタイムに 2 人の家にお邪魔したり、泊めてもらったこともあります。またスキーに行ったり、テスト期間と一緒に勉強をしたりしました。2 人は馬が大好きなので、一緒に乗馬も体験しました。とても仲良くしてくれてたくさんの素敵な思い出が作れて嬉しいです。

私は、地元でジャズダンスを習っています。みんな年下ですがとても明るくて楽しい雰囲気です。地域のクリスマスイベントに参加した時も地域の子供たちと交流することができました。何かを一緒にやることの素晴らしさに気づかされています。

このような環境にいますが、新しい友達を作ることは、容易ではありません。特に学校では常に 6 人で行動してしまうので、なかなか新しい友達の輪を広げることができません。5 人と違うクラスをとっているときはたまに 1 人になってしまうたりもして、これじゃあダメだと分かっているけど、他の笑い



合っているグループに入っていく勇気がなかなか出ません。留学前は「自分からたくさん話しかけて友達をたくさん作るぞ!」と意気込んでいましたが、現実はそのよういきませんでした。口で言うのは簡単ですが、実際に行動に移すのはとても難しいと感じています。私は、この学校で静かにしている学生だと思われているのではないかと感じています。勇気を出して一歩踏み出し、さらに、友達の輪を広げ、さらに充実した満足のできる日々を送りたいです。

#### <イベント>

なんといってもこちらのイベントは本格的で素敵です。ハロウィンやクリスマスは最高でした。家でも学校でも地域でも街でもハロウィン一色、クリスマス一色になりました。全員で盛大に祝う瞬間が、大変楽しかったです。逆に日本では盛大に祝うお正月は、当然こちらでは祝うものではなく、元日からスノーボードに行っている自分に驚きました。

生活習慣、食生活、気候、周りの環境。本当に何から何まで全く違う文化の違いが、とても興味深いです。カナダはとても寒く、マイナス 20 度になることも普通で、時には、マイナス 30 ~40 度という恐ろしい気温になりますが、そんな寒さも楽しんでます。またスノーボードを始めたばかりですが、熱中して毎週通うほどになりました。多くの新しいことに触れて私の心も大きくなってきている気がします。

#### <最後に：気づかされたこと>



留学をしてカナダの良さをたくさん知ったと同時に、日本の良さにもたくさん気づかされました。日本の家族や友達が、どれほど私にとって大切な存在なのか身に染みてわかりました。日本では、親と距離を置きたいと思いつには反抗もしました。留学前に、「日本の友達を恋しく思うことはありそうだけど、ほんとにホームシックなるのかな」と感じていました。自分の予想とは逆に、ホームシックになってしまいました。当然のことなのですが、全て英語で、何を話しているのかほとんどわからない状況も続き、学校も状況がつかめず、大変疲れる日々でした。帰宅しても当然英語の環境で、またホストファミリーに何となく気をつかわないといけない自分がありました。どれほど自分が日本の家でリラックスしていたのか、家族がいるだけで安心してた事がよくわかりました。カナダの家族も本当に素敵で、本当に恵まれていると感じていますが、日本の本当の家族はやっぱり特別だと心から思いました。

友達も同じです。何気ない話でも驚くほど笑いあえて、話が尽きなくて自分をさらけ出すことができました。今まで私にかかわってくれた全ての人に私はとても助けられて元気をも

らっていたのだと気づきました。感謝の気持ちを絶対に忘れてはいけないと痛感し、何かをお返したいと心から思います。英語がほとんどは話せない私と一緒にいて、仲良くしてくれたり遊びに誘ってくれたり勉強を教えてくれるカナダの優しい友達や周りの人たちのように、相手の気持ちを明るくできるような人になりたいです。さらに周囲の人を大切にできる人になりたいと強く感じています。人として尊敬されるような人間を目指します。

またそのほかにもここにきて日本の文化の素晴らしさもたくさん感じています。日本では当たり前すぎて何も思わなかったことが当たり前ではなく幸せなことだったのだとわかりました。

この半年でたくさんの新しい人やもの、考え方に会い、たくさんの新しい経験をして私の心や考え方はどんどん変わってきていると感じます。笑顔と感謝の気持ちを忘れず、すべてのことに挑戦し、全力で楽しむようにしていきます。残りの半年はさらに積極的になり、多くの人とかかわってコミュニケーション能力や英語力を磨いていきます。そして自分と向き合い、将来の私の目標を見つけて帰国する決意です。

#### <恵那地球塾 第1期生 長期留学出発直前の様子>

